KOMEITO 公明党

小泉通信

■ 平成 23 年6月号・NO。42号
■ 発行：山口県議会議員・小泉利治

すぐに60回出動！

「カーッ、頭が痛い」。今年1月25日、由子さんは仕事中に突然、目まいと頭が割れるほどの激しい痛みに襲われた。「くも膜下出血に違いない」。とっさに由子さんは思った。

母と姉を、くも膜下出血で亡くしていたからだ。すぐに救急車で市内の病院へ搬送してもらった。

ドクターヘリ大活躍！

今年1月22日に運航開始した山口県のドクターヘリに命を救われた、同県長門市に住む梅村由子さん（60）から、このほど、ドクターヘリの導入を推進した公明党山口県議団の小泉利治団長に感謝の手紙が届いた。

6月7日、小泉県議と先野正宏・長門市議が梅村さんを見舞い懇談した。

ドクターヘリに救われた

公明党の取り組みに感謝の手紙

くも膜下出血の女性 初出動で救急搬送

「導入なければ、私は生きていない」

公明新聞・平成 23 年 6 月 18 日付

手術は約10時間にも及んだが無事成功。「九死に一生を得ました」と由子さんは振り返る。術後の経過は順調で、後遺症もなく、3月2日には退院でき、その数日後には車の運転ができるまでに回復した。

由子さんは入院中、テレビで小泉県議の県議会代表質問を見た。小泉県議はドクターヘリの運航状況に触れ、初出動で救われた由子さんのことを紹介した。

由子さんは「どうしてもう一筆をしたためなければ」と退院後、小泉県議に手紙を書いた。手紙には「ドクターヘリ導入を進めてきたのが、小泉県議をはじめとする公明党山口県議団だったと聞き、ペンを取りました。ドクターヘリでなければ、私は生きてなかったと思います。本当にありがたいです」と感謝の思いがつづられていた。

山口県のドクターヘリ導入は、党山口県議団が一貫して推進し、実現させたもの。5月末時点で出動は51件。

東日本大震災の救出活動にも派遣され、宮城県仙台市、石巻市で2日間にわたり、被災地の患者・家族の救急搬送に当たった

喜びをかみしめる梅村夫妻

医大前での就航式

ドクターヘリの内部

広宣局会議を開催

県本部において県広宣局部長会を開催し今後の広報紙(ひゅーまんネット公明)の編集方針について種々検討を重ねました。

おいでませ！山口大会

ご相談はお気軽に

山口県議会議員
小泉利治　事務所
〒755−0073
宇部市中尾1丁目7番8号
TEL0836-37-6023
携帯：090−2860−5212

市民相談の現場へ直行

国有林の樹木が伸びすぎて、落葉や日照問題で、悩んでいた現場へ直行し直ちに関係機関へ要望しました。

砂防ダム加工し農業用水を確保

萩市・見島の山田屋水利組合長さんと完成したため池を視察し喜びあいました。

萩市沖約４５キロに浮かぶ離島・見島で先ごろ、農業用水を確保するため、雨水が溜められる砂防ダムの加工工事が完了し、地元水利組合から喜ばれている【写真】。

同水利組合は、ボーリングで汲み上げた地下水を水田に使用していたが、地下水に塩分が含まれていたため、稲が枯れるなど米の発育に影響が出ていた。そのため、塩分を含まない新たな農業用水の確保が望まれていた。

同水利組合の山田屋幹夫代表から「何とかしてもらいたい」との相談を受けた公明党の小泉利治県議は一昨年1月、県農林水産部に要望。県は砂防ダムの奥に穴を掘り、雨水を溜め、パイプラインを通じて、各水田に供給できるようにした。

山田屋代表は、「各水田にきれいな水が行き渡り、稲の育ちも良い」と語っていた。